令和３年度　北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

1　報　告　地　区：オホーツク地区

2　事例報告学校名：小清水町立小清水小学校

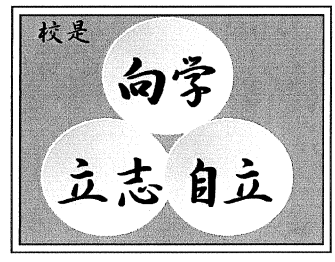
3　報告者職・氏名：校長　岡　内　知　也

4　キ　ー　ワ　ー　ド：小中一貫教育の推進

1　はじめに

本校は、町内６校が再編統合して平成24年に開校し、「小清水の子は小清水で育てる」の合い言葉の下、平成29年度より小中一貫教育を導入した。「中学校併設小中一貫型小学校」として義務教育９年間を小・中学校教職員の一貫した指導や支援により、「ふるさと小清水町への愛」を抱きながら、未来へ向かう子どもの育成を目指している。

2　教育目標の一貫性（教育目標のつながり）



小学校と中学校には、それぞれ学校目標が制定されている。それぞれの教育目標は尊重しつつ、教育目標の一貫性を図るために校是（学校の教育上の根本精神）を制定している。また、小・中学校のめざす児童生徒像を制定しており、年度ごとに共通した重点目標を設定し、授業改善と９年間の接続を図っている。

3　子ども理解の一貫性（子ども理解のつながり）

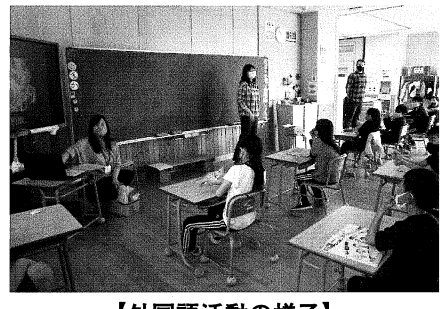
小学校入学から中学校卒業までの９年間を見通して子どもの育ちや学びを見守るためには、小学校と中学校が視点を共有し一貫したものにしなければならない。そのために、児童や生徒一人一人について、小・中がお互いの情報を交換し、児童理解・生徒理解の仕方を共有することができるようにしている。

(1)　分離型における小中合同研修の推進

【合同研修の様子】

小中一貫校として、小学校と中学校の教員は、互いにコミュニケーションをとることが求められる。しかし、分離型一貫校において、両校職員が日常的に交流することは容易ではない。このような課題に対する有効な解決手段として、本校は「小中合同研修」を選択した。また、相互授業参観、相互特設授業実践交流など、子どもたちの学びや育ちを支える授業作りや指導方法を交流している。これらを通して教員がつながり、一人一人が授業改善を進めることで児童生徒一人一人の個性や能力を最大限に伸ばし、９年間の系統性のある教育課程編成につながると考える。

(2)　教科担任授業の実施

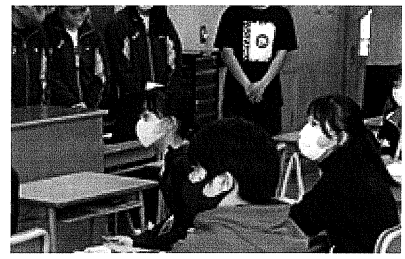


【外国語活動の様子】

令和３年度については、中学校英語教員２名が来校し、小学校の外国語及び外国語活動の授業を担当している。小中教員のつながりを強めることで、情報交換の密度を高めるとともに、児童生徒理解を深め、学習指導・生徒指導の改善につなげている。

教員同士の日常的な交流により、児童・生徒の望ましい姿をイメージし、９年間を見据えた教育活動を行うという教員の意識を高めている。

(3)　6年生による中学校登校



6年生が中学校入学前に中学校舎で過ごし、中学校の生活リズムになじむことにより、「中1ギャップ」の軽減を図っている。中学校教員による授業や、中学校ならではの取組や行事を体験させることで、4月からの学習への見通しと意欲を子どもにもたせることができる。

令和3年度の登校日は、年10日設定されており、1月には連続5日間の登校日を設定している。

4　学習・生活指導の継続性（学習・生徒指導のつながり）

小中一貫教育を導入する準備として、平成27年度から学習規律を「学力向上を図る統一した取組」として小・中学校共通した取り組みを始めた。さらに、平成28年度からは「学力向上を図る統一した取組」に生活規律を加え、内容を充実させ「小清水スタンダード」として9年間の学習・生活指導の指標とした。

小清水町小中一貫教育　学習スタンダード

内容	項目	第1/2学年	第3/4年	第5/6年	中学1/2/3年
学習の時間を守る	授業前	◇つぎの時間のじゅんびをして、休み時間にする。 ◇じゅぎょうのはじまる時間までに、ちゃくせきする。		◇時間を確認して着席する。 ◇授業内容を確認しながら始まりを待つ。 ◇教室移動は速やかに休み時間内に行い着席する。	
	授業準備	◇机におくもの・場所を決める。 机の上…定規・えんぴつ2本・赤（青）えんぴつ・消しゴム 机上の左側に教科書/ノートを置く。左利きの人は右側に置く。			◇必要なものだけを机の上に置く。 筆箱（シャープペン、消しゴム、赤ボールペン、定規） 机上の左側に教科書・ノートを置く。左利きの人は右側に置く
	授業中				
あいさつをする	授業前後	◇始めと終わりのあいさつを元気にする。	◇始めと終わりのあいさつをみんなで声を揃えてする。	◇気をつけ→「はじめます」	◇授業の開始と終わりに全員で声をそろえてあいさつをする。 ◇起立→気をつけ→礼→「はじめます」→礼→着席
聞き聞く		◇話している人を見て聞く ◇うなずいたり、あいづちをうったりして聞く。 ◇正しいしせい（せすじをのばす「ぐう」「べた」「びん」）で聞く。			◇聞くときは、話している人を見て、手遊びしないで聞く。 ◇共感できたら、うなずいて聞く。
話す	手	◇はなす人のはなしがおわったら、ひじをのばしてしっかり手をあげる。	◇ひじを伸ばしてしっかりと手をあげる。 ◇名前を呼ばれた時、指名された時、同意を求められた時は起立をする。（元気よく「はい！」）		◇周りに聞こえる声で、短く、元気よく返事をしよう。 ◇名前を呼ばれた時、指名された時、同意を求められた時は起立をする。
	話し	◇聞いている人を見て話す ◇クラスのみんなに聞こえるこえで、おわりまでしっかりとはっぴょうする。			

小清水町小中一貫教育　生活スタンダード

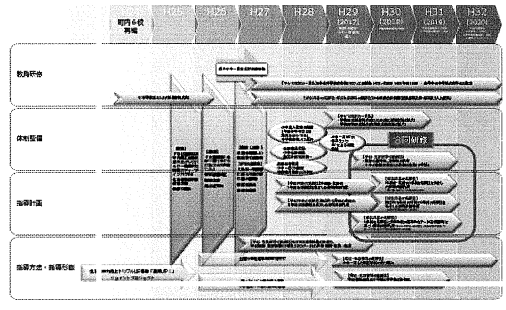
内容	項目	第1/2学年	第3/4年	第5/6年	中学1/2/3年
学習の時間を守る		◇とうこうじこくをまもることができる。		◇登校時刻を守ることができる。	◇登下校、集合、時刻、掃除の時間を守る。
		◇じゅぎょうのはじまるじこくをまもることができる。		◇授業や活動の始まる時刻を守ることができる。	
身支度をする		◇くつばこにくつのかかとをそろえて入れることができる。	◇ぬいだはき物をそろえることができる。		◇防寒着、手袋、マフラーはロッカーに入れず、ハンガーに掛ける。
身の回りの整理整頓		◇つくえやロッカーのせいりせいとんができる。	◇つくえ、ロッカーの整理整とんや教室内の整理整とんができる。	◇つくえ、ロッカーの整理整頓や教室内外の整理整頓ができる。	◇カバン、副教材含めて、すべての持ち物はロッカーに入れる（必活用具も含む）。
		◇席を離れる時は、椅子をしまう。			◇起立する時、席を離れる時は、必ず椅子を入れる
あいさつをする		◇あさ「おはようございます」　ひる「こんにちは」　かえり「さようなら」。			◇あいさつは自分からしっかりする。
		◇げんきよくあいさつができる	◇はっきりとあいさつができる	◇気持ちよいあいさつができる	◇周りに聞こえる声で、短く、

5　学習内容の系統性（学習内容のつながり）

現在の学習内容は、必ずそれ以前の学習内容を生かしたものになっている。現在の学習内容の定着が不充分だと、将来の学習内容の定着のためのつまずきが生じてしまうことになる。9年間の学びの系統を見通すために、小清水の子どもたちが苦手にしている学習内容を小学校と中学校で分析して改善策を立てる。普段の授業の様子はもちろん、全国学力学習状況調査や標準学力検査の数値から児童生徒の課題を分析していく。小中の教員が課題に対して「限定的な場面」で「具体的な対策」を立てて日常の授業で実践し、その成果に基づいて学習指導計画を作成している。

6　おわりに

小中一貫教育を通して、教員は小学校6年間の接続や、中学校3年間の接続を意識し、日々の実践を進めている。6年生の中学校舎登校は、受け入れる中学校側の違和感が無くなり、生徒もかつての自分たちを映して6年生を見るようになり、温かさが感じられるようになってきた。

今後は、教職員個々の資質・能力の向上に加え、小中一貫教育がベクトルを揃えた組織的な取組となるため、異動職員・新採用職員を対象とした「小中一貫研修」を実施し、ねらいや取組について理解を図る。また、既存の組織を活性化させ、年度の取組についての評価を行うとともに、今後の方向性や方策を示したロードマップと具体的な計画を作成していきたい。

小清水町小中一貫教育ロードマップ